

通りで見つけた わが町の

「昭和レトロ」な店



昭和にタイムスリップしたかのような店構え。野澤屋は代々続く商家で、隣に社屋ビルと2つの蔵がある

昭和初期の店構えがそのままに！

米の野澤屋 (有) 多摩ライスセンター野口店

東村山市野口町1-12-5 ☎042(391)0102



上) 店全景 ガラス戸の前のコンクリートは大八車の幅に合わせたもの

左上) 壁には「東京府食用油販売所」木札などが並ぶ

左下) 野澤屋オリジナルの「地蔵米」市内にある国宝「千体地蔵尊」のご加護を受けた米



大ヒットした映画「ALWAYS 三丁目の夕日」や今年のNHKテレビ「ゲゲゲの女房」に描かれた、古きよき昭和の風景。それは郷愁だけにとどまらず、あの頃の人と人との温かいつながりも思い起こさせます。古いものがどんどん取り壊されていく中で、変わらずそこに在る昭和の面影。わが町にはまだまだ昭和の温もりがのこっていますよ。

東村山駅西口バス通りから入ったところ。何と昭和2年頃できたお米屋さん。入口のガラス戸も店内もほとんどが当時のまま。奥の壁には明治の頃の東京府からの販売許可証などが掛かり、この店の歴史を物語っています。大正から昭和にかけて、商店が並び東村山で一番早く発展した場所でした。「旅館もあって夜は芸者さんの姿も見られ、桶屋や下駄屋、電気店が並びそれは賑やかで、あの頃が一番いい時期でしたね」と語る野澤さん。

この貴重な建物を建築の専門家が見学に来たり、他市から移築の話もあるほど。「毎日店を開けて、使っているから状態が保たれた」と専門家から言われます。けれども維持することは難しい。カギが壊れても引き戸のガラスが割れても代替品が売っている店がないのです。かろうじて川越から買ってきてもらったりしています。東村山でも現存する店で一番古い建物だといわれます。「古くって恥ずかしいのよ」と野澤さんは言われるけれど、とんでもない。こんな価値ある建物は町の誇りですよ。



これぞ昭和の銭湯

松の湯

西東京市南町 1-13-11 ☎042(461)0312
(営) 15時～26時 不定休

正面のガラスブロックが昭和レトロモダン。内部は明るくきれいにリフォームされていますが外観は昭和38年から変わらなない。しかもお湯を沸かす燃料は薪。廃材などを使い、夏は1時間おき、冬は30分おきに燃やします。利用客は若者とお年寄りが多い。「二人暮らしのお年寄りは自宅のお風呂で倒れたりしたら危ないでしょ。銭湯では必ず人がいるし、話し相手もありますしね」と女将さん。加速する高齢社会の強い味方、銭湯にはぜひ頑張ってください。ほしい。(田無駅から新宿方向へ、ガード下から文化通り田無南町二郵便局近く)



アナログな体重計と懐かしいドライヤー



富士山のペンキ絵は2年前に塗り替えられ色鮮やか

「てっぱん」を囲む町の陽だまり

ひろしま屋

東久留米市幸町 1-2-14 ☎042(475)2496
月曜・第4日曜定休 (営) 11時半～20時



鉄板とともに31年、鮮やかな手さばきの岡田さん

住宅街の一角に木枠のガラス戸、懐かしさが漂う間口の広島お好み焼の店。作務衣姿の岡田悦子さんが子育て中に始めた店は31年目に。幼稚園の帰りに母親と食べに来た少年もいまは常連客。飽きさせない味に加えて、「お母さん」と慕われ人生の話相手にも。店内の「忘己利他」の標語は「モウコリタ」と読み、好きな言葉だとか。

暖簾をくぐるのをためらうほど見かけは普通の家



変わらない味、変わらない人情

中野鯉節店

西東京市東伏見 2-13-17 ☎042(461)4704 月曜定休

昭和37年から今も守る上質の鯉節販売店。店頭で削った新鮮な削り節も手に入ります。「この近くに銭湯があつて、昔は人通りが絶えなかったんですよ」と中野さん。今は駄菓子を買にくる子どもたちのふれ合いの場。お店のやさしいおばさんがいつも見守ってくれています。(東伏見駅南口、東伏見稲荷神社参道沿いに歩いて6分)



通りの移り変わりを見てきた看板



枕崎産の鯉節など厳選した乾物が並ぶ



懐かしさに思わず手が出る駄菓子

小川駅西口の店2軒

駅前の老舗酒店は4代目

小林酒店

小平市小川西町4-14-15
☎042(341)0009

店名の上には「☆サッポロビール」の懐かしい文字



新鮮な煮干が量り売りで

「お向かいはうちより古いの」と伊勢崎さんが教えてくれた小林酒店は「大正の頃はよろず屋でした」と4代目になる小林幸裕さん。昭和42年に立て替えた建物。たくさんの酒類に加えて、乾物や量り売りの味噌や煮干も。こういうお店、今はコンビニに変わってしまいましたね。ちょっと横には丸ポストも立っています。

89歳のおばあちゃんが守る店

伊勢崎商店

小平市小川西町4-17-32
☎042(341)1044



チャームिंगなおばあちゃん、伊勢崎高子さん



「ここで58年間やってんのよ。私もう89歳、天国に近いのよ」朗らかで話好き、素敵なおばあちゃんが商うお店。下駄、スリッパ、サイズいろいろの箆に文具、生活用品、近くの病院から丈夫な箆をよく買いに来るそうです。レジなし、長年使い込んだ5つ玉ソロバンでささっと計算します。昭和



昭和48年から愛用のソロバン

の時間が止まったようなお店です。

風情ある 武蔵野うどんの有名店

手打ちうどん 小島屋

東村山市野口町3-10-3 ☎042(391)2638



裏側には薪がいっぱい。ご主人が薪割り中でした。



ブルーの建物に黄色のテントが鮮やか。

昭和39年開業当時のままの風情、それ以前は土地を貸した、建設会社の工事従事者用の宿舎だったものを、工事終了後そのまま譲り受け、小島さんがうどん屋を始めたもの。かまどで薪を燃やして沸かした大釜の湯で、茹で上がった手打ちうどん、その作り方と素朴な味は昔も今も変わりません。

人々が集う、 コミュニティカフェの元祖

カフェギャラリーみづほ

清瀬市旭ヶ丘3-760-1 ☎042(492)1318

昭和49年にオープンと思えないほど、今見てもおしゃれな建物。オーナーの小川マリ子さんが36年間、地域の人々に憩いの場を提供してきた店。店内周りには染色家の作品がずらり。昔からのお客が、ここでのおんびり話したいと集まるとか。美味しいコーヒーと手仕事の技とオーナーの心配りが長続きの理由でしょうか。



アットホームな雰囲気店内



三角窓がかわいい南欧風の建物